

建設通信新聞

着実なインフラ投資を

諸外国並みに引上げ必要

参院決算委員会で足立議員

26日の参議院決算委員会で自民党の足立敏之参院議員は、韓国を始めとする諸外国と比較した日本のインフラの整備水準の遅れを提示し、

「(日本のインフラは)貧弱と言わざるを得ない。今後公共事業を拡大して着実にインフラ整備を進めるべきだ」と問題提起した(写真)。

答弁に立った中西健治財務副大臣は、「マクロ的にみれ



その上で、「ただ、(足立)委員ご指摘のとおり大災害の多発化もあり、引き続き、公共事業予算については厳しい財政事情を踏まえつつ、効率化・重点化を図る」ことを応じた。足立議員は「日本が経済で一流を目指すのであれば、インフラ整備も諸外国並みに引き上げていく必要があると思う」と指摘。直近の欧米諸国でインフラ投資が活発化している事例を挙げ、「日本も大きくかじを切って、インフラが一流で皆さんのが豊かだと思える国にしていただきたい」と主張した。

ば、日本の公共投資は対GDP(国内総生産)比で見た政府の固定資本形成は米国、フランス、英国、ドイツよりも大きな数字だ。イタリアよりも大きく、G7の中でも高いところに位置している。また、政府の固定資本ストックを対GDP比で比較するとOECD(経済協力開発機構)諸国の中で第1位ということで、貧弱というところまでは言えないのではないか」と反論した。